

明倫館だより

第41号
平成16年4月1日発行
発行人 井上晴雄
財団法人 南豫奨学会
南豫明倫館
〒184-8586
小金井市中町 4-18-26
TEL 042-383-9835(代)

行者一行
泰山木の
坂下る
武内 敦子
灯火を
移して汽車の
籠なる
勇 八郎
「獅子唐句舎」

平成15年度主要行事報告

平成15年

- 4月 1日 新入寮生12人入寮
- 12日 寮則説明会・学生部屋回り
- 19日 学生用風呂給湯ボイラー点検
- 20日 平成15年度第1回常務理事会、
新入寮生歓迎会開催
- 22日 学生用トイレ修理、風呂排水口修繕
- 5月13日 電気保安協会定期点検
- 26日 監査役会開催
- 6月 7日 平成15年度第1回定例理事会、
同評議員会・OB会開催
- 16日 植木剪定開始
- 27日 第2回常務理事会開催
- 7月 9日 定期ガス消防点検
- 25日 第3回常務理事会開催
- 29日 定期浄水槽点検
- 8月 4日 夏期休暇開始
- 6日 新旧委員会との懇親会開催
- 8日 松山OB会開催
- 9日 宇和島OB会開催
- 16日 夏期休暇終了
- 27日 愛媛県4寮懇親会開催
- 9月 3日 学生用トイレ・厨房水詰り工事実施
- 5日 第4回常務理事会開催
- 10月10日 16年度奨学生面接実施
- 11日 平成15年度父兄懇親会開催
- 11日 50周年記念南予地区記念式典開催
(於宇和島自動車会館)
- 23日 第5回常務理事会開催
- 11月 3日 50周年記念東京地区記念式典開催
(於ホテルニューオータニ)
- 23日 自治委員会総会開催。平成15年度
後期自治委員長に山本弘幸君就任
- 27日 外壁タイル補修工事実施
- 12月 5日 第6回常務理事会開催
- 26日 冬期休暇開始
- 29日 隣地西方氏宅排水口工事実施
- 平成16年
- 1月 7日 冬期休暇終了
- 2月12日 第1次入寮願書締切
- 22日 平成15年度卒業生歓送会開催
- 3月12日 第2次入寮願書締切
- 19日 入寮面接選考試験



再興五〇周年記念の 卒業生十三名巣立つ

卒寮生氏名(大学名・出身地)進路
一、将来の抱負 二、後輩への助言

上田 浩司(日本大学・文理学部・八幡浜市)
フリーター(公務員志望)
一 自立した大人になる。
二 人はなまじ半端に賢いから、過去を悔やんで今をおろそかにする。未来があるから、と今をおろそかにする。今を一生懸命生きましよう。

矢野 紀夫(東京大学・法学部・西予市)
司法修習生
一 正直な仕事をしてお金が貰えたら、と思う。力をつけなくては。
二 聞かれていることに対して、誠実に、過不足なく答えることはホントに難しい。人の話が聞ける大人になりたいね。

川中 真耶(東京大学・理学部・津島町)
同 大学院
一 世の中から不安全なプログラム(即ち、ウィルスに感染したり)がない様にしたい。
二 趣味をたくさん持ちましょう。趣味は視野を広げます。

梶山 卓郎(早稲田大学・理工学部・宇和島市)
同 大学院
一 四年間学んだことを生かして、将来世の中のためにような研究活動を行っていきたいと思います。
二 今、何に役に立つかわからないことでも、後で「そうだったのか」と気付くので、何事も地道にやるのが良いと思います。

本田 裕幸(早稲田大学・法学部・西予市)
四国電力
一 四国を日本に住みやすい地域に変えるべく、まずはインフラをとおして郷土を見つめたい。志を高く気概をもって歩んでいきます。
二 安定は不安定、不安定は安定。多様であること

とは頼もしいことです。個性をぶつけ合って、心に残る寮生活を送られることを祈ります。

松田 哲哉(東京農工大学・宇和島市)
渡米
一 人生においてネタの多い人間になりたいです。そして年一回は畑を耕したいなあ。
二 四年間のうちに結果を出そう。チャンスは二度はないよ(笑)

山瀬 達郎(電気通信大学・電気通信学部・宇和島市)
(株)グリフィン
一 コンピューター技術者としての腕に磨きをかけて、流の技術と人間性を兼ね備えた技術者を目指したいと思っています。
二 大学生生活は結構あっけなく過ぎるものです。一瞬一瞬を大事にし、よく学びよく遊んで、自分を磨き上げて下さい。

三浦 直(法政大学・経営学部・御荘町)
留年
一 四年間過こしてみても、まだはきりとしたビジョンも見えないのですが、将来は人に携わる仕事をしたいと思っています。今の自分があるのはこれまでに会った多くの人のおかげだと思ふので、今度は自分が「何か」を与えられる人間になりたいと思っています。
二 大学四年間という時間は、長いように思いますが意外と短いものです。その時間の中で色々な事を学び、自分の未来へとつながる確かなモノを見つけられる大学生生活を送って下さい。

上甲 大介(中央大学・商学部・松山市)
(株)イルムスジャパン
一 「ことも心」をいつまでも持ち続けたいです。
二 「人と人とのつながり」を大切にして下さい。
宮内 宏樹(早稲田大学・政治経済学部・松山市)
南海放送(株)
一 三〇才までに結婚。

二 頑張らないように頑張ってください。

船田 定大(早稲田大学・教育学部・津島町)
同 大学院
一 研究職に就きたいです。何かしらおもしろい発見ができれば最高ですね。
二 一生懸命バカでできるやつは素敵だと思います。

越智 悠太(東京工業大学・工学部・奈良市)
同 大学院
一 研究者見習いとして、いろいろな方向から考えて「この問題は重要だなあ」と思った問題は解けるまで集中して頑張りたいと思っています。
二 朝起きてあさごはんを頂き、毎日昼ごはんを欠かさず、夜しっかりと眠ると毎日頑張れると思います。職員の皆さんへの感謝を忘れずに。

上田 洋之(明治大学・商学部・八幡浜市)
未定
一 なし
二 なし

平成15年度 後期自治委員会

▷委員長	山本 弘幸(3年)
▷副委員長	竹田 重仁(3年)
▷企画	細川 達郎(3年)
▷風紀	木下 龍二(3年)
▷整備	宮住 達朗(2年)
▷情報	岡本 光平(2年)
▷会計	友澤 孝規(2年)
▷広報	竹崎 響(3年)
	西田 幸平(2年)
	永見 賢(2年)
	清水 宏樹(2年)

活気ある明倫館を

自治委員長 山本 弘幸
東京農工大(農)三年

今期、委員長を務めさせて頂くことになり、とても光栄に思っております。就任当初に掲げた目標は、活気に満ちた寮にすることでした。そのために、寮生の意識改革に取り組み、寮行事への参加の呼びかけ強化を行ってきました。四月には、新入寮生も加わり、寮に活気が出てきたように感じます。今の現状に満足することなく、最後まで他の委員と共に、寮のために尽くしていきたいと思っております。

現役で司法試験に合格!

「スタートを切りかねて」

東京大学法学部 矢野 紀夫
(八幡浜高校卒)

情報公開の世の中だ。最近では司法試験の成績まで、受験者本人に教えてもらえらるらしい。そんな通知は来なかったはずだと思っていれば、どうやら、こちらから開示請求しないといけないという話だ。同じゼミの友達がいうには、法務省に合格証書を受け取りに行く際に、開示の請求ができたみたいだ。僕が行ったときには、係の人は、そんなこと、二言も言ってくれなかった。

まあ、構わないのだ。後になってからでも、開示請求は出来る。友達は言うが、する気は最初からなかったのだから。どんな通知が来るかは少し興味があるが、それは彼の分を見せせてもらうことで十分だ。しかし、この成績開示というの、どうやら「あなたの成績は総合×××番でした」というような、歯切れのいいものではなかったらしい。AからGまで、たった七種類の記号で示すだけ(Bも、トリプルAもなし)。

それでも結局、試験の出来にまいち自信がない僕は、開示請求をしていない。うーん、だいたいだね。そもそも司法試験にいい成績で受かる必要があるのかなあ(これが言い訳だけに聞こえませんが)。

司法試験合格後は一年半の司法修習が待っている。最近、月9(「ギナール」)のおかげで説明が省けて来たけど、とにかく、それがあつた。

司法試験に合格することは、直接には司法修習を受けるため、必要最低限の法律知識が認められたことで、それ以上ではない。

修習を終えて、法律家として仕事を始めてからも勉強は続くし、「司法試験合格は決してゴールではなく、スタートに過ぎない」……結婚披露宴のスピーチみたいだ。

司法試験の制度が、もうすぐ変わる(法科大学院もこの春開講する)。合格者はとりあえず、今の三倍近くにはなるらしい。数が増えるってことは、弁護士二つとつても、それぞれの専門分野を持つという意識がますます強くなるのだと思う。

あと、言われているのは、法律以外の専門知識を持つ人を法律家にしようという話。たとえば、法科大学院には、理系学部出身者の特別入学枠がある場合が多い。最近、話題になったの、たとえば、特許関係の裁判なら、工学などの知識がある弁護士、裁判官が必要ということだろう。

この流れ自体は、妥当だと思うのだけど、司法試験の改革をしさえすれば、全てがよくなるというふうな宣伝のされ方がされるのはどうかと思う。弁護士は代理人で、裁判官は審判。そのままでは当事者(プレーヤー)にはなれない。本質は、やはり裏方稼業。

理系の才能がずば抜けてある人は、発明をするプレーヤーになった方が、世界のためによい。ぼくなるんじゃないか。代理人ばかりが、でかい面している世の中では発展性がない。法律家が、花形といわれなくなると、司法制度改革がホントに完成した場合の、二つの形かもしれない。何でも出来る弁護士なんてものは、今でも、とくにいなくなっているから、もうすぐそこだろうか?

なんか、どんな寂しい話になってしまった。司法試験に受かったら、それこそ、何でもできそうな気がしていたけど……。これから、法律家として、なにをしていこうかなあ。ゴールだと思っていた場所には、何の出迎えもなかった。さあ、いままさら、引き下がれないし。

裏方をするなら、この人を、この分野で、つて選択が、まだ僕には、残されているのだから。……で、じっくりと考えることだ。ハッピーになれるかもしれない。やつとたどり着いたスタート地点で、腰を下ろして、もうしばらくは目を凝らしている、遠くで何か光っていないかと。

富士登山記

拓殖大学 政経学部二年 渡辺 徹

「富士山に登ります」寮の食堂の掲示板にさりげなく書かれていたのを見て、日本人だし一度は富士山に登りたいと思いつき、ノリノリで参加者の欄に名前を書いたのがきっかけです。

登山日は丁度前期試験が終わってすぐなので、これはナイスタイミングでストレス発散できるだろうと楽しみにしていました。

登山の数日前にミーティングがあり、参加者は最終的に五人になりました。そのミーティングで登山隊長から登山の日は雨の予報が出ていないと言われました。雨の日は、基本的に登らないほうがいいので隊長も迷っていましたが、登山未経験の無知な僕は「雨でも登りましょう!」と無敵の考えを推して結局行くことになりました。

登山の計画としては、富士山五合目までバスでいき、夜に登り始め徹夜で山頂を目指し、山頂で日の出を見たいというものでした。

いよいよ登山当日、寮の前で記念写真を撮り、いざ出発!今から富士山に登ると思うと、ちよっぴり誇らしい気持ちになりました。

夕方、バスで富士山五合目に到着。心配していた天気も良好。僕たち五人は富士山に「選ばれし者」と確信しました。バスから降りてまず思ったのが、空気が新鮮。うまい。薄い。そして、それは寒い(怒)。沈む夕日を背にそとシャッターを切った。それから軽く腹ごしらえをしていくことにしたのですが、途中立ち寄った店でトイレにいくとすると、なんとそこには「トイレ代五十円」と書かれた箱が置いてあり、思わず笑っちゃいました。もちろん払ったんですけど、別の店のトイレはタダだったという素敵なオチがまつていました。

腹ごしらえも終わり、辺りも暗くなり、みんな

でツエを買って、リポビタンDを飲み、気合十分で登山開始。真っ暗な中、二歩三歩踏みしめる大地。山の静寂。満天の星空。ひんやりしててうまい空気。という大自然のフルコース。日頃の都会の生活とは正反対の空間に「気持ちええな、癒されるわ」と感無量涙。

しばらくすると隊員の一人がしんどそうなので休憩をとりました。登山の鉄則は「番遅い人」しんどそうな人にペースを合わせる。というもので、常にみんなに気を遣って協調しながら登らなければなりません。隊長はその隊員に僕が正直なところ半信半疑に思っていた「食べる酸素」という食べ物を渡しました。たどえ効果はなかったとしても、酸素を食べるんだ!と思えばメンタル面で非常に楽になること間違いなし!

最初の方は会話が弾んでたんですが、やはり登っていくにつれてだんだん人数が少なくなってきました。各合目には小屋などがあり、その小屋の前で休憩しながら登っていききました。徐々に見かける登山者も増えてきました。登るにつれてだんだん頭痛がしてくるようになりました。何しろ真暗で山頂がどこか見れないので、どこまで登ればいいのかわからずメンタル面でキツかったですね(苦笑)。

かなり上のほうにきて、隊員の一人がかなりしんどそうなので、休憩所じゃない登山道の隅に寄り休憩しました。しばらく休憩して、もう一踏張りとして、自分も喝を入れて歩き出すこと三十メートル、休憩所らしきところ



ところに到着。そこにいた人に「ここは山頂だよ」言われて目が点。つまり僕らは山頂の三十メートル前で、あとどれだけ登るんやうって思いながら休憩してたんなんです(笑)。思いもよらぬ山頂になっちゃいました。人に言われるまで登頂したのに気づいてなかったんです。まあ、でもそれはそれでよかったですね。

予定よりかなり早く着いたので、日の出を待つことになったのですが、これがまた寒い。尋常な寒さじゃなかったですね。山頂には小屋があり、そこで冷え切った身体を温めるために豚汁を頼みました。その豚汁は僕たちにとつて高級料理より

もありがたいものでした。そして、そろそろ日の出の時間! この目に焼き付けるぞ。そんな気持ちで待ちわびていました。他の登山者たちもその光景を見つめていました。そして太陽が雲から頭を出した瞬間に眩しくて温かい光が僕らを照らし出しました。すげえ、キレイ。(涙) 単純だけど素直にそう思いました。

太陽が全部見える状態より雲に隠れてたり、山際から出てくる時とか、日の出の前の薄暗い様子とかそういう時の方が面白かったです。なにより僕は富士山ならではの雲海に魅せられてましたね。ほんとに二面が雲に覆われて、雲の上を歩けるうなんです。力強く、優しく、真っ白でみてる心が幸福になるんです。天国ってこんなところなんかなって思っちゃいました。せつかくので山頂のさらに上にある日本最高地点に登りました。そこでみんなでリポビタンDで乾杯し達成感を分かち合いました。

なんとか疲労困憊になりながらも下りを終え、みんな富士山ビールを買って乾杯しました。おもしろくないわけですね。それからバスで新宿に帰ったんですけど、バスで爆睡して起きると大都会から大都会になつていて違和感がありましたね。それで、改めて東京やっぱすげえよって。けど、今回富士山に登ってよかったと思えましたね。富士山自体はもう行ったんですけど、自分によかつたのは終始感じていたワクワク感ですね。知らない物事に対する好奇心、探究心っていうかそういうしばらく忘れてた気持ちが蘇ってきて純粋にわくわくしました。それで、この気持ちだよ、今の俺に必要なのは。世の中にはまだまだ俺の知らないことがいっぱいある、知りたい。だから刺激を求めてちゃんと動かないとね、今年目標決定、わくわく男。

編集後記

▼卒業生三人が巣立ち、新入寮生一六人を迎えて五七人でスタートしました。梅ももくれん、桜と慌ただしく咲き、今はつじと花木水木が満開の多摩の初夏を迎えています。

▼五〇周年記念式典の折には皆様から多大なご支援を賜り本当にありがとうございました。ここであらためて深く御礼申し上げます。お蔭をもちまして「奨学金支援会」も各界から多数のご賛助を頂戴しておりますが、目標まであと一歩。皆様からのいつそのご支援を賜わりたくお願い申し上げます。

お蔭様で『南豫奨学会』

奨学金支援会」申込み順調!

〈財団法人南豫奨学会・奨学金支援会〉

平成十六年度からスタートしました「奨学金支援会」の申込を受け付けております。お蔭をもちまして、四月二〇日現在申込総数二四九人、総金額は二二八万五千円に達しています。内訳は下記の通り。さつそくOBの皆様を始め関係各位から多大なご支援をいただき、十七年度から奨学生を新たに募集すること

郵便振込番号 〇〇一五〇一二二九六五二二

名義 『南豫奨学金支援会』

銀行口座 伊予銀行新宿支店普通預金口座

名義 『財団法人南予奨学会・奨学金委員会』

委員長 松本 三郎

支援会申込並びに入金状況 (平成16年4月20日現在)

	申込者数(人)	払込金額(円)
理事・監事他	14	420,000
評議員	28	510,000
OB	54	630,000
現父兄	25	330,000
一般	23	245,000
法人	3	150,000
市町村	2	0
合計	149	2,285,000